

第7回久慈市沖浮体式洋上風力発電検討委員会 議事概要

日 時：令和5年6月20日（火） 14:00～16:00

場 所：久慈市役所 3階 大会議室及び ZOOMWEB 会議室

出席委員：北澤委員長、田中委員、伊藤委員、似内委員、兼田委員^{*}、山王委員（代理：城内氏）、横内委員^{*}、佐藤委員、高橋委員^{*}、阿部委員^{*}、照井委員（代理：本間氏）、工藤委員、向井委員^{*}、小野寺委員^{*}、桑田委員、嵯峨委員、大崎委員 ^{*}は ZOOMWEB 参加者

1. 主な議事

【議事1】 第6回検討委員会の振り返り

【議事2】 今年度の進捗状況

【議事3】 来年度の予定

【議事4】 その他

2. 主な意見等

【議事1 関係】

特になし

【議事2 関係】

- ・現時点での大臣許可漁業団体とのコミュニケーションはどのような方針か。
→地先漁業者の理解を一定程度得られたと判断できる状況になったら、知事許可・大臣許可漁業者に相談させていただきたいと考える。情報の共有・意見交換は現状でも適宜行っていく。
- ・洋上風力で大事なのは、風況と同時に地元理解である。共同調査の風況は、事業性が見込まれる年間平均8～10m/sとなっているか。
→実測値は現在観測中であるが、ゾーニング事業のシミュレーションでは沖側で風速8m/sの風が吹いていると出ている。かなり有望であると認識している。
- ・漁業者からの心配や懸念などはどのような意見があるか。
→漁業の邪魔になる・漁業をする場所が減る、支障が出て収入が減る、風車付近で操業していた漁業者が場所を移ることで別の地域にも影響が及ぶ、といった懸念が見られた。反対ではないが懸念はあるという声は多く見受けられた。
- ・懸念に対する回答は広く公開して欲しい。多くの方の理解につなげるコミュニケーションツールとして重要であると考え。調査段階でのコミュニケーションとしてステークホルダーの方に調査に立ち会ってもらう方法もある。様々な観点でコミュニケーションの充実を図っていただきたい。
→ご意見を参考に進めて参りたい。

- ・洋上風車と漁業との親和性の検討について、さし網やかごは漁業協調策の効果はあるかもしれないが、浮体付近が利用できない沿岸漁業者にも漁業協調策を提示する必要があると考えるので、漁業者に説明する際には工夫した方が良い。

→昨年来、沿岸漁業者向けに魚の生活史を考慮した魚礁を組み合わせた漁業協調策等を検討してきたが、ある漁法の漁業者には功を奏しても別の漁法の漁業者にはメリットがないことが目下の課題であるとする。特に沖合漁業者は、漁業の場所が制限され、操業場所を移動しても過密になることを懸念されている。その空間が全く使えなくなるというよりは、空間を共有しながら漁業効率を上げることができるか、まず検討する必要があると考える。コミュニケーションの中で可能性やアイデアが得られれば、さらに別の方向の議論ができると思う。そのような点に期待してコミュニケーションを継続したい。

- ・空間の共有について、空間の使い分けが可能だとしても刺し網やかごは、水深があると潮で流されるため狙った所に下ろせないことがあり、構造物があるところに漁具は入れにくいことを念頭に置きながら進めていただきたい。

→非常に重要で難しい問題だと思っている。潮流に流されることを考慮して、状況を正しく認識した上で検討したい。

- ・漁業者とのコミュニケーションは関心のある事項であるため、きちんと報告書にとりまとめるよう検討して欲しい。

【議事 3 関係】

- ・海外先進地の情報収集について、フランスでは国がゾーン定義する際に何をもってエリアを決めるのか。

→有望な発電事業地は、地元や企業から情報提供されるとみられる。国が海域を指定すると事業実施はほぼ決定という位置付けになり、後に漁業者も協議に参加して様々な立場を主張しながら、事業の方向性を決めていく流れになる。

→フランスでは、ゾーン定義に関してあらかじめ入札スケジュール等を示し、その期間内で合意形成可能な部分を自治体に依頼する。事業実施が前提になっている。日本とフランスのどちらがよいということではないが、事業としてはシンプルである。日本では潜在的なステークホルダーが後から現れる可能性もあるが、フランスでは対象海域内でおおよそそのステークホルダーが明確化される点の一つの利点であると感じた。

- ・フランスではステークホルダーの特定は国が行うのか。

→ステークホルダーとの合意形成は地方自治体が担うが、地方自治体がステークホルダーを探す日本とは違い、フランスでは影響のある漁業者が自ら名乗り出る形式をとっている。名乗りでなければ、自身の主張はできないスキームである。

- ・風況調査について、海上で観測することは考えているのか。

→沖合で発電事業者が共同調査を行っている。洋上の情報を可能な範囲で提供いただき、本業務の最終報告書の中でも整理したい。

・事業者が事業性の検討のために実態に近い場所で測っていると聞いて興味深く思う。
→事業者はより高い精度で事業性を検討するため、洋上観測のニーズがある。本事業の観測地は陸域だが、高高度では地形の影響をあまり受けず参考にできるデータが取れている。

・海外先進地での環境調査について、このプロジェクトは沖合 22km にあるが、義務的監視の騒音調査は水中音か、飛翔動物への影響か。自主的監視の景観はどういった調査か。鳥類とコウモリ類の死骸調査について、どのようなモニタリング体制をとっているのか。海では死骸は流されて、見つけにくいと思われるが、何か工夫していることはあるか。
→騒音については、空中の騒音ではなく水中の騒音である。景観については、具体的な検討材料は今回見せていただけなかったが、おそらくリゾート地などからの見え方などを検討しているのではないかと考えている。鳥類やコウモリ類の死骸については、浮体中央部のプール状になっている部分に落下した死骸を採集していると聞いた。解剖調査によると衝突死よりも弱った鳥が別の原因で死亡していることが多いと伺った。また鳥類やコウモリ類は音響センサーを使って監視をしている。レーダーのようなものだと思うが、高度な専門知識を持った調査員が飛翔する生物の種類を判別まで試みていると伺った。

【議事 4 その他】

[全体を通しての質問]

特になし

[学識者話題提供]

・洋上風力発電に関する環境影響評価の在り方について全面的に見直す検討が行われていることについて話題提供いただいた。

[各委員等コメント]

- ・洋上で大きなフロートの上に風車を設置するという点で、GPS 波高計のメンテナンス等のノウハウが活かせると思う。力になれることがあれば協力していきたい。
- ・この会議にはゾーニングの時から参加しているが、様々な問題が山積みである。一つ一つ解決していかななくてはならないが、改めて大変さを感じた。
- ・商工会議所としては、工事や O&M が地域活性化に非常に寄与すると考えられるため、実現して欲しいと考える。個人的には、大義は何であるかというのをしっかり軸に持つことがプロジェクトを動かす場合に一番大切だと考える。地球温暖化とか大きなことを考えて、国としてやる方針を立てたということを地元の方々、特に利害関係の発生する漁業者に対して、どういうふうに説明していくかが大事であると考えている。漁業を含め地球温暖化による様々な影響に対して、洋上風力導入と漁業者の生活の安定化について漁業者とともにデザインすることが肝要だと考える。
- ・洋上風力を推進するために、制度面を含めて現在検討している状況である。この検討委員会でも、最新の情報を収集しつつ、情報提供や検討を進められればと思う。

- ・漁業者との対話について、県も市とともに丁寧に対応していきたい。洋上風力導入について、地球温暖化対策、地域振興や地域の活性化、経済の活性化を目的として検討している。今は地域活性化に向け漁業者との調整を中心に活動しているが、雇用等の面も含め地域経済についても現段階から視野に入れながら、市とともに活動していきたい。
- ・地域の方々を中心に、きちんとデータを示し、地域への貢献なども含め丁寧な対話をするのが大事である。エネルギーの地産地消として地域へどういった形で供給できるのかという点も含めて報告書に記載されることを期待する。
- ・久慈市の取り組みは、セントラル方式の先駆けになっていると思う。現段階から関係者の皆様と十分なコミュニケーションを図ることは、洋上風力発電の導入を図るうえで非常に重要であるため、お手伝いできることがあれば引き続き対応したい。
- ・県では、昨年10月から久慈港の長期構想の策定作業に着手している。本調査の結果を踏まえながら、基地港湾としての検討も見据えて長期構想の検討を進めていくため、引き続き情報共有などを図っていきたい。
- ・漁業者の方に丁寧にお話していただき、理解をしていただくことが必要になる。漁業者との調整等でお手伝いできることがあれば協力していきたい。
- ・この取り組みを参考にさせていただきたい。隣接の自治体として何か協力できることがあれば協力したい。
- ・本日は大変勉強になった。
- ・漁業者は燃油や資材の高騰、漁獲量の減少、魚が安いなど、大変な状況と聞いている。この事業によって、漁業者へのメリットとしての漁業協調策などの話を含め、丁寧に説明をしていくことが一番であると思う。
- ・今年度は様々な漁業者に理解を得る作業を行うとのことだが、他地域で進んでいる様々な事業の情報も収集して、新たな気づきを得てほしい。30年の長期に渡って経済効果のある事業と理解しているので、将来のためにも頑張ってもらいたい。
- ・コミュニケーションを第一に漁業者への説明に努めてきたつもりだが、行き届いていなかった。県と連携し、まずは8地区の生産部に対し、久慈市沖の活用と漁業者が必要とするということについて丁寧な対話・対応に努めてまいりたい。
- ・沿岸漁業者のみならず、県や国の許可漁業者にも情報を常に幅広く発信し続けることが重要だと思う。音や魚礁などの観点から漁業にプラスの効果をご提供できることがあれば、そういった結果も使って説明していただきたい。
- ・本事業で得られた様々なデータを、今後の展開を見据え活用しやすい形で整理していただきたい。地域にもたらす事業の効果を久慈市の将来像などと関係づけながら多面的に把握分析していただきたい。利害関係者とのコミュニケーションの過程や成果をまとめていただきたい。
- ・最終年度で概ねデータが収集されてきている段階だが、引き続き調査を実施し、その結果を解析の上最終的な取りまとめをして、事業性の検討を進めていただきたい。漁業関係者との協議は、本日いただいたご示唆を踏まえつつ、本事業の終了後のことも見据えながら引き続き進めていただきたい。

以上